

様式第2号（第7条関係）

富士見市議会意見交換会実施報告書

実施主体	文教福祉常任委員会	
テーマ	部活動の地域移行について 部活動支援に携わる方々の見えるや りがい・課題	
目的	富士見市の部活動支援に携わる方々を招き、部活動支援を通して 見えるやりがいや課題について意見交換し、そこから得た見分を 市政に活用するため。	
実施日時	令和6年2月7日（水）午後3時から午後4時30分まで	
実施場所	富士見市役所 全員協議会室、第1委員会室及び第2委員会室	
対象者	人数	11人
	概要	部活動指導員3人、教員8人
参加議員	委員長 加賀 奈々恵 副委員長 篠原 通裕 委員 木村 邦憲、尾崎 孝好、斉藤 隆浩、 深瀬 優子、勝山 祥	
実施内容		
<p>1 進行</p> <p>(1) 開会</p> <p>(2) 委員長あいさつ</p> <p>(3) 委員・参加者自己紹介</p> <p>(4) 意見交換</p> <p>(5) グループ発表</p> <p>(6) 閉会</p> <p>※閉会后、アンケート記入・回収</p> <p>司会者：篠原副委員長 記録者：斉藤委員、勝山委員</p>		

2 意見の概要

各グループにおける意見交換では、「教員・指導員のやりがいと課題」について質問し、参加者の方々に回答していただくことから始めた。

一通りお答えをいただいた上で、部活動の地域移行に対する考え方について伺った。

(1) 教員・指導員としての指導のやりがいと課題

< Aグループ >

- ・指導員としての経験は、子どもの成長を見守り、勝ち負けを共に考えることに大きなやりがいを感じる。しかし、土日だけの活動では、子どもたちとの信頼関係構築に時間がかかることが課題である。
- ・子どもたちと目標を達成する喜びは格別だが、家庭との両立、時間の制約が難しい面もある。
- ・部活動は学生時代のよい経験を生かしており、向上心ある生徒と関わることができるが、週末は部活動と授業準備で忙しく、疲弊することもある。
- ・過去に経験したことがない種目の指導になると、新たな挑戦だが、受け持ちたい部活ができない葛藤もある。
- ・体育教員としての長年の経験から、子どもたちの成長を見ることができるのは楽しいが、外部指導員になると、顧問教員との間で指導方法についての共通理解を得るのが難しい。
- ・運動部での指導経験は生徒指導にも役立つ。専門外の指導はハードルが高く、家庭や地域との理解を得るのが難しい。

< Bグループ >

- ・やりがいを意識せずに始めたが、生徒が成長する様子に喜びを感じる。家庭との両立や専門外の顧問を担当する難しさがある。
- ・学校教育の底上げにもつながっておりやりがいがあるが、親や地域からの要望、特に吹奏楽部への演奏要望が多く、練習や活動時間の増加に追われている。
- ・部活動の顧問になりたいという動機で教員になったが、保護者のニーズの多様性や特定の教員に仕事が偏ることに難しさも感じている。
- ・美術部は平日のみの活動で負担は少ないが、部員数の増加や文化祭、体育祭の準備でのやりがいと難しさがある。

(2) 地域移行に対する考え

< Aグループ >

- ・部活動とクラブチームの関係が課題である。
- ・地域移行は教員の負担軽減にはよいが、指導員の確保や給料問題が課題である。完全に地域移行をする場合、中体連（公益財団法人日本中学校体育連盟）の大会は中止し、勝負を求める場合はクラブチームで行うべきではないか。
- ・熱心な指導員を取れば、移行が可能かもしれないが、勝利至上主義になるリスクも考慮する必要がある。
- ・基本的には教員が関わるべきとの立場から、外部の指導員の確保や子どもとの関わり方に難しさを感じる声もある。

< Bグループ >

- ・部活動の地域移行には大賛成であり、子どもたちにとってよいことだが、外部指導員の確保や手当ての問題がある。
- ・教員が全てを指導員に任せることはできないが、休みを取る必要があり、指導員と教員の指導に差が出る問題を考慮する必要がある。
- ・部活動の地域移行が選択肢の一つとしてあることは問題ないが、やりがいを利用した搾取にならないように手当てなどの充実が必要。
- ・保護者からの重圧や、部活動を統合することの考え方についても議論があり、特に美術系活動においては、色々な教員の考えに触れることの重要性が指摘された。

3 まとめ

意見交換の結果、主に以下のような意見が出された。

- ・制度の整備：部活動の地域移行を進める場合には、制度の整備が必要であるとの意見が多く見られた。教員と地域指導員の役割分担、手当ての明確化、部活動の目的と方針の再定義が求められていることが明らかになった。
- ・意見の多様性：部活動に関わる全てのステークホルダーからの意見を収集し、多様なニーズに応える柔軟な対応が重要であるとの認識が共有された。
- ・保護者との連携：保護者の理解と協力も部活動の成功には不可欠であり、保護者の意見も積極的に取り入れていくべきであるとの提案があった。

総じて、部活動の地域移行は理念として支持されるものの、課題も山積していることが明らかになった。

これらの課題を乗り越えるためには、教員、指導員、保護者、地域社会との連携をさらに強化し、各方面からのサポートを得ながら、実行可能な方策を引き続き模索していく必要がある。

※この記録は、意見交換会での発言をまとめたものです。

発言内容は、趣旨が読み取れる範囲で一部要約してあります。

令和6年3月4日

富士見市議会議長 様

上記のとおり意見交換会を実施したので、富士見市議会意見交換会実施要綱第7条第1項の規定に基づき報告します。

実施主体の代表者氏名 加賀 奈々恵